



人権教育だより

京丹後市立大宮中学校

令和6年11月29日

No.11



2学期の人権学習のテーマは「障がいのある人の人権」です。各学年の学習と考えたことを紹介します。(文章は一部編集しています)



3年生

3年生では、障害のある人が自身の力を活かし日常生活を送るために必要な配慮を知り、「差別のない共生社会について」考えました。

＜共生社会を実現するために、できることを考えよう。＞

「日常生活・社会貢献・将来の職業」の中からテーマを1つ選んで、自分の考えを書こう。＞

＜日常生活＞

これまで習ったように、障がいがあるからといって特別な扱いをするのではなく個性として受け止め、みんなと同じように接する。パラリンピックの動画でも言っていた、その人ができないことばかりに目を向けるのではなく、その人のできることや得意なことに目を向けていきたい。

＜社会貢献＞

積極的に募金をする。集まったお金でこれまで不便に感じていたことが取り除けて、よりバリアフリーの実現に近づく。

また、ボランティア活動に参加する。障害のある方や高齢の方との接し方などを学ぶことができ、それによって関わりがもっと強くなると思う。

＜日常生活＞

障がいのある人とどまらず、様々な人がどう大変なのかをまず知る必要があると思うので、バリアフリー施設を見つけた時に「何の、誰のためにあるのか」を考えられるようにしたい。また、気を遣おうと意識しないで関わるのが大切だと思った。

＜将来の職業＞

例えば店を作る際に、周りの店ではどのような工夫がされているのかを調べたり、実際に障害のある人に聞いてみたりすることで、その人たちにしか分からないところにも目を向けられると思った。

＜日常生活＞

日常生活の中で、障がいの有無に関係なく困っている人を助け合っているようにすることが、みんなが生きやすい共生社会を実現するために不可欠なことなのかなと思った。そのためには、常に周りを見られるようにしていくのが大切だと思う。



＜日常生活＞

車椅子で困っている人を助けるためにボランティア活動を試みたり、車椅子に乗っている人の大変さや車椅子で行けないところを理解しておいたりする必要があると思う。また、どのような場面で手助けが必要なのかを考えておく必要もある。だから、道徳やHRだけでなく日々の生活でも考えておく必要があると思う。

＜日常生活＞

誰もが役割を持ち、お互いが配慮し存在を認め合い、そして時に支え合うことで、孤立せずにその人らしい生活を送ることができるような社会にしていきたい。また、自らの意志に基づいて生き方を決めていく。

＜日常生活＞

障害のある人でも使いやすい施設はだんだん増えているけど、今日の授業で、まだ困ることがあると分かった。もっと、色々な人の意見を反映していくべきだなと思った。また、困っている人がいたら人任せにせず自分から声をかけたり、場合によっては手を貸したりすることが大切だと思った。

＜日常生活＞

障がいのある人に対して、特別扱いしたり、一人でできることを自分が邪魔したりしないようにしたい。でも、そうだからと言って助けなかったり、手伝ったりしないのではない。共生社会を実現するために、まずは困っている人がいたら声をかけてみるのが大切だと思った。

あなたならどうする？

- ・駅のエレベーター（6人乗り）
- ・車いすの入れるスペースは立っている人の3人分程度

ケース① ・3人は同じクラスの友達



ケース② ・あなたと松葉づえの人は同じクラスの友達



改善策を考えよう。



おむつを替えたいけど、男性が使える場所がなかなかなくて…



おじいちゃんは男性用トイレに行きたいよね。わたしは恥ずかしくて一緒にいけないわ…一人じゃ無理だし、どうしよう？

授業では左や上にあるイラストの場合についても考えました。

＜エレベーター＞

- ①車いすの方に先に乗ってもらい、それから自分たちが乗る。車いすの方が乗れるようにスペースを空ける。
- ②エスカレーターや階段が使える人は一旦降りて、スペースが余れば乗る。自分を含む身体が不自由でない人が3人ほど降りて、車いすの方が乗れるようにする。

＜赤ちゃんを抱いた男性＞

多目的トイレや男性用トイレにおむつ替えスペースを設置する。男女共に入りやすいおむつ替えコーナーを設置する

＜おじいちゃんと女の子＞

多目的トイレ内に目隠しになるようなカーテンを設置する。

などのアイデアがありました。みなさんは他にどのようなアイデアが思い浮かびますか？おうちの人とぜひ話し合ってみてください。